

## 令和4年度第1回加西市立図書館協議会議事録

日 時 令和4年6月20日(月) 15:00~16:20

場 所 アスティアかさい3階 集会室

出席者 委員8名：笹倉剛、松本孝美、松尾弥生、衣笠朋子、市浦央子、志方正典、  
大崎あすか、吉田香代子

図書館2名：伊藤館長、民輪館長補佐

欠席者 柳良典、井芹明美

### 1 開会 民輪館長補佐が開会を伝えた。(15:00)

### 2 あいさつ

#### (1) 会長あいさつ

図書館協議会では、図書館はどうすれば活性化に繋がるかということと一緒に考えていきたいと思う。現在、ビブリオトークの講座を市内中学校で開催している。「本を読むことは好きですか」と聞くと、泉中学校は7割の子どもたちが手を挙げた。私が訪ねた中学校で7割も手を挙げるのは初めてで、大体が2、3割であった。小学校の時から本に親しんでいる子どもたちはそれだけ違うと感じた。

話が変わるが、ウクライナで戦争が起こっている。昔は戦争になると、一番先に攻められるのは図書館である。図書館には、国の歴史が蓄積されていると言われている。例えばアレキサンドリア図書館はシーザーが火をつけて、何ヶ月も燃え続けたという歴史がある。

図書館は魂の癒しどころとされている。魂をふやすところだと。本にはそういう効果がある。加西市の図書館も市民の方にとって、本当に心の拠り所になればいいと思う。あともう一つ考えなければならないのは、文部科学省が提唱している課題解決型の図書館である。また、地域を活性化させるには図書館がどうすればいいのかという視点も非常に重要である。本日は、いろいろな意見を出していただき有意義な会議になるようお願いする。

### 3 報告・議事事項

民輪館長補佐から、以後の議事進行を笹倉会長に依頼した。

(1) 令和3年度図書館事業実績報告について(伊藤館長説明)

(2) 令和4年度図書館事業計画について(伊藤館長説明)

(3) スマート図書館ネットワーク事業について(伊藤館長説明)

委員：スマート図書館ネットワーク事業について、各学校等の蔵書を同じシステムで管理するということが、加西市立図書館のホームページからも蔵書検索ができるのか。

事務局：検索はできない。一般の利用者の方からは加西市立図書館の蔵書しかみることはできない。管理する側の先生や図書館側のシステムからは各学校の蔵書について検索することができる。

委員：システムが導入された後は、それぞれの学校等での管理になるのか。学校間の圖書の貸出はどうなるのか。また、市の図書館のようにICチップのようなものを本につけるの

か。

事務局：学校間の貸出について、システムでは可能である。管理や運用をどうするかは今から決めていくことになる。装備については、バーコードや本の背に請求記号をつけていく。

委員：学校によっては、すでに管理システムを導入しているところもある。どのように運用していくのか、うまくいくのかと思う。

委員：それに関連して、学校で、集中的に必要になり集める図書は国語の教材や、ある教材に関しての図鑑などである。こういう場合に市の図書館から借りることが多い。それが他の学校も同時期になるので、お互いに貸し借りをし、時期をずらせば、うまく運用できるようになると思う。ただ、図書担当者にとっては煩雑になって大変だと思う。

事務局：市図書館としてはシステムの機能をすぐに利用してくださいではなく、機能を持たせていつでも対応できる状態にしたい。

委員：小学校では11校のうち4校がすでに管理システムを導入している。その他の学校は図書カードに手書きをして貸出をしている。すでにシステムを導入している学校にメリットはあるのか。この協議会に来る前に子どもから図書館のおすすめの本がぼくらにすぐわかるようになったらいいなと言われた。今、子どもたちは一人に1台の端末Chromebookを持っている。このシステムが導入されることで、図書館から直接に子どもたちへChromebookを介しておすすめ本の紹介をするようなアプローチができるのか。

事務局：アプローチについては検討課題である。子どもたちは学校図書館に足を運ばないと、実際にどんな本があるのかわからない。システムが導入されることで、自分のChromebookから学校図書館の蔵書を検索できる。授業のなかでもこんな本があるのかなと検索することができる。調べ学習に役立つのではと思う。

委員：検索をするとなると、年齢や個人差もあり、子どもたちの発達段階に合わせた検索になるが、子どもたちの世界が広がるようになればと思う。

委員：現在システムを導入している学校等は、既存のシステムを活用せずに、新たなシステムに入れ替えなければならないのか。

事務局：申し訳ないが、入れ替えることになる。

委員：移行期間の作業が大変になると思う。

委員：学校に多く導入されているシステムとは、全く違うシステムを導入するのか。

事務局：市の図書館が導入しているシステムに準じたものを導入する。

委員：バーコードも全部変わってしまうのですね。

事務局：そうである。

委員：今までもMARC（機械可読目録）を統一して欲しいとお願いしていた。いまやっとできることになる。それは、文部科学省が資源共有ネットワーク推進事業をずっと行っていたことによる。1冊の図書について、どの学校、図書館が持っているというのがわかるのがよい。OPAC（オンラインパブリックアクセスカタログ）を検索して、どこに何があるということがわかれば、例えば、読書会を開くのであれば、本を集める準備もしやすいし、一番大事なことだと思う。図書館に聞いて探すことをしていると、OPACの価値がないと思う。

事務局：OPACの話がでたが、管理する側の先生や市の図書館側のシステムからは各学校図書館の蔵書を確認できるが、一般の利用者の方からは検索できない。

委員：それができるようになればと思う。加西市はMARCの統一ができ、オンラインで検索ができるようになれば、後は人の問題で、専門の職員を入れることが必要である。司書教諭は法制化されているが、学校司書は入れることが望ましいという努力義務になっている。学校に学校司書が入ったら学校の先生方はとても助かると思う。神戸市、姫路市、尼崎市、宝塚市も、市の予算で学校司書を配置している。加西市も、図書館の専門家が入れば、このような事業はもっと生きてくる。

事務局：図書館としても学校に学校司書の方が入ればと思う。

委員：九会小学校では学校図書館の蔵書数が1万冊を超えていた。その他にも学級文庫がある。これだけの冊数の作業を誰がするのか。業者の方がするのか。

事務局：登録などの作業は委託業者にしてもらうことになる。学校には、この機会に学校図書館の古くなった図書、子どもたちが手に取らないような本の整理をしていただければと思う。依頼を受けて、図書館の司書も学校図書館の整理に順次まわっているところである。

委員：昔からある推薦図書のように置いておかなければならない本もある。一概に廃棄することはできない。教材の内容とそれに対応する本との関連は教師がつかんでいないといけませんが、そのために買っていた本が廃棄されてしまっただけでは何にもならない。昔の本でも長い年月受け継がれてきた本もある。見極めが大事である。

事務局：時代が変わっても価値のある本は置いておくべきである。古いから捨てなさいということではない。今の時代に明らかに外れている本を整理して学校図書館の活性化を図ってほしい。

委員：各学校で廃棄基準があると思うので、廃棄基準に従って進めるべきである。

委員：なかなか廃棄基準があるところは少ない。毎年、新しい図書は購入しているが、図書の廃棄となると難しい。どの本を処分してどの本を残すのか。図書館の司書の方に図書整理にきてもらう予定にしている。専門的な目でみていただき、アドバイスをもらえると助かる。

委員：会長のあいさつのなかで、中学生の本が好きな人で手を挙げた7割、3割の話があった。どういうことから違いがでてくると考えられるのか。

委員：泉中学校の校長先生からお話を聞いた。まず校区の小学校の時からかなり読書に親しんでいる。市の図書館からもよく小学校でおはなし会を開いてもらったりして、読書活動が定着している。泉中学校にも落ち着いていてきれいな図書室があり、昼休みにたくさん子どもたちがきているそうだ。読む習慣ができています。

委員：その話を聞いてとてもうれしい。校区の小学校にも読み聞かせにしている。子どもたちから読んでもらった本を好きになったとお手紙をもらうこともある。

委員：その活動もとても大事で影響している。文部科学省の調査では、ボランティアの方や先生から読んでもらった本について8割の子どもが読み直しているとのことである。

委員：レファレンスサービスについての統計は、簡易調査、いわゆる書誌事項だけの調査と、事実調査、事実について調べる時間がかかる調査にわけて取られているのか。

事務局：令和3年度はレファレンスサービスの件数だけを取った。令和4年度からは件数だけ

でなく、簡単であるが調査の内容についても記録を残すようにしている。令和4年の4、5月は23件あった。

委員：慣れてきたら、簡易なものとは別にして、事実調査について、分野ごとに、例えば人文、社会、自然、一般の四つに分けて記録を取るのが望ましい。多くの図書館はそのように記録を取っているのではないか。事実調査を四つに分けるとどの分野のレファレンスが多いのかわかるようになる。

事務局：そのように記録を取りはじめたい。

委員：イベント・講座について、昨年度は新型コロナウイルスの関係で、たくさんの人数を集めず、少数の人数で回数を多く開催されてきたが、今年も同じように開催されるのか。

事務局：今のところは同じように少人数で開催する予定である。映画会は少しずつ人数を増やしていく。今後は、開催する場所や状況にもよるが、少しずつ人数を増やしていきたいと考えている。

委員：昨年度開催されたSTEAMまつりはWebでの申込が5分で満席になり、締め切ったと聞いている。人気があってよいことだが、先着順でなく抽選にはならないのか。

事務局：STEAMまつりは教育委員会として開催している。今年度どうするか課題である。

委員：プログラミングワークショップも人気があり、先着順で狭き門である。開催回数をもっと増やすか、例えば、新規限定で募集するなどして、もっとたくさんの子どもたちを参加させてほしい。学校ではなかなかできないワークショップなので、引き続き開催してほしい。

委員：図書館セミナーの読書会に参加した。読書好きの男女が集まって楽しい会であった。このような会を続けてほしい。子どものイベントは多いが、館内利用しているのは大人も多いため、大人のための読書に関する集まりをもっと少しできないかと思う。かさい・えほんの森のボランティア会議で話がでたが、どのような方でも集まって好きな絵本や本を持ち寄って紹介する会をいつか実現できたらうれしい。

委員：西脇市の図書館は月1回ビブリオトークの読書会を開催している。自分が読んで良い本を1人ずつ持ってきて順番に紹介していくビブリオトークである。神戸市北区の図書館はあらかじめ本を指定しておいて話し合いをする読書会を開催している。図書館で読書会を開催しているところは少ない。読んだ本についての価値観がそれぞれ違うから、本好きな方にとっては楽しいと思う。

#### 4 連絡事項

次回の会議は令和5年3月中旬から下旬の予定で了承を得た。

#### 5 閉会 副会長が閉会のあいさつをした。

スマート図書館ネットワーク事業だが、よりよい図書と通じて、よりよい環境になって、子どもたちが本をもっと好きになる、そんなお手伝いになるような事業であって欲しいと思う。

(16:20終了)